

漂流ゴミ特有の課題も

今回、人の手によって収集し、処分したゴミは可燃物1.3トン、不燃物0.7トンにのぼります。



向野地区から参加した(写真左から)

川上 俊雄さん
はる 陽君(東通小5年)
そら 夏君(同2年)

ボランティア清掃に参加した陽君・夏君は、「ゴミが多くてびっくり」「海がもっときれいになればいい」と話してくれました。

尻屋崎に打ち寄せる漂流ゴミは、毎年、大量です。明るかに村外から流れ着いた物がたくさんあり、投棄した者の責任を問うことが難しい一面があります。これは、長い海岸線を有する東通村にとって大きな問題です。

また、漂着物の処分費用も嵩みます。清掃活動を続けていくためには、当然、財源確保が大きな課題です。さらに、流れ着いたゴミの処分費用を、そもそも誰が負担する

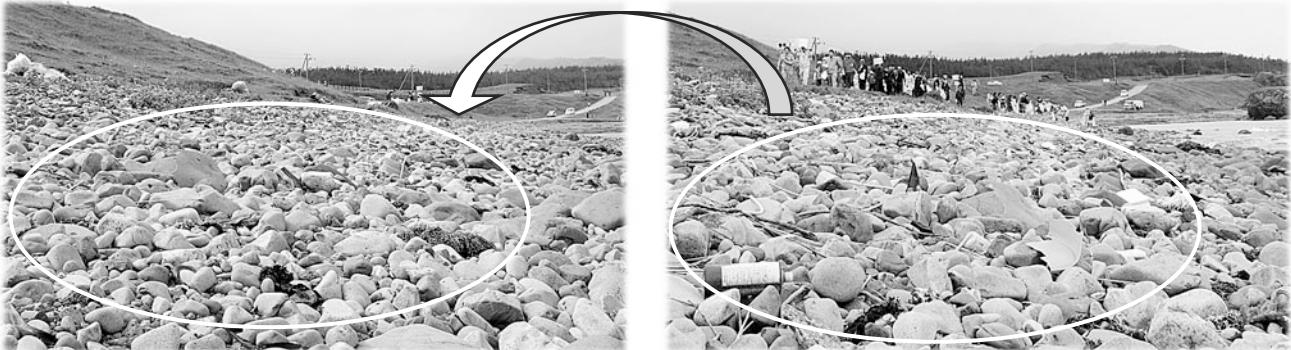
尻屋崎に打ち寄せる漂流ゴミは、毎年、大量です。明るかに村外から流れ着いた物がたくさんあり、投棄した者の責任を問うことが難しい一面があります。これは、長い海岸線を有する東通村にとって大きな問題です。

漂着物に限らず、ゴミの問題は個人の意識・モラルが何よりも大切です。今後も清掃ボランティア等の募集を行っていきますので、互いに誘い合い、それぞれが問題意識を認識・発信し、村外からの参加者も増えていくことを願っています。

今後の展開

べきか。近年、全国的・国際的な問題に発展しています。

村は、処分費用を確保しながら、できるだけ事業を継続していきます。



東通村 ジオパーク 探訪

尻屋崎のボランティア清掃が行われたあと、下北ジオパーク構想を応援する有志が集まり、尻労漁港奥の海岸を清掃しました。

尻労漁港奥の海岸は、石灰岩やチャートなど下北のジオポイントとなる岩石が露出している場所です(広報8月号を参照)。

この場所は、これまで大々的な清掃活動は行われてきませんでしたが、ジオポイントとしての魅力が増すにつれ、「もっときれいにしなければ」「お客さんを迎える準備をしなければ」…と、それぞれが問題意識を持ちながら、清掃活動に繋がっていました。

清掃のあとは、ガイド員でもある氣仙 修 東通村観光協会長が改めてこの場所の魅力をガイド。



軽トラック3台分の漂着物などを撤去しました。



ゴミを拾って、見て、歩いて、触ることで身近になった大地の魅力。今まで知らなかった東通村の歴史。地域を知って、「なるほど!」と自慢できることを1つずつ増やしていく。そういった環境・学習活動もジオパーク活動のひとつです。

今後もジオパーク清掃活動を実施していきます。ボランティア清掃が行われた尻屋崎もジオポイントの宝庫!ジオパーク活動に興味のある方は役場 経営企画課(27-2111)までお気軽にご連絡ください。